



産地紹介: 南オーストラリア州 バロッサ (バロッサ・ヴァレー & イーデン・ヴァレー)

Barossa Valley Eden Valley

オーストラリアワイン史とともに進化する産地バロッサ

—— 古木の畑を守り続け、新たな価値を生み出す ——

19世紀半ばからオーストラリアワイン産業の要として発展してきたバロッサでは、オーストラリアを代表する大企業ワイナリーがワイン産業を牽引する一方、何世代も続く栽培農家とのあいだに強い信頼関係を結び職人気質のワインメーカーによるハンドクラフトワインでも知られます。酒精強化ワイン生産の歴史に始まり、1980年代、政府の奨励によってブドウ樹を引き抜くという苦い経験を経て、今バロッサは濃厚で重厚なワインという画一的なイメージから脱却し、その土地に根ざしたワイン造りと新たな価値を生み出す方向にあります。

隣接していながらも、独自の地形や気候風土を有するバロッサ・ヴァレーとイーデン・ヴァレーから、取扱生産者のワインと合わせてご紹介します。

バロッサのワイン産業史

1840年代	アデレードには英国の裕福層が企業投資を目的にやってくる一方で、1842年、宗教的迫害を逃れ、新世界での定住地を求めていた東欧のルター派指導者、オーガスト・カヴェル牧師が信徒団、シレジア(当時の東欧の一地域)の農民とともにアデレードへ到着。バロッサ・ヴァレーに移り住み、果樹園とブドウ畑を開墾し、商業を行う。
1890年代	セッペルツ・フィールド、ヤルンバなど英国系の企業がバロッサにワイナリーを興し、イギリス市場向けにポート、シェリー、マスカット、トカイなど酒精強化ワインの製造、輸出を始める。南オーストラリア州政府が1899年フィロキセラ法を発令し、他州からのブドウ樹の持ち込みなどを厳しく制限する。
1901年	オーストラリアが連邦制に移行し、州間の関税が撤廃されたことで、他州へワインの販売が可能となり大きく発展する。
1929-45年	世界恐慌と第二次世界大戦によりワインの需要が急減し、バロッサのワイナリーとブドウ栽培農家は窮地に追い込まれる。
1945-60年代	戦後、移民が多く流入したこともあり、ライフスタイルや国内市場の嗜好が変化し、バロッサでも酒精強化ワインからスティルワイン生産へのシフトが起きる。
1970年代	国家機関による栽培や醸造に関する研究が大きく発展、大手を中心に温度調整可能なステンレスタンクや灌漑設備などが導入され、品質の向上・安定が進み、特にバロッサを中心に赤ワインブームが起きる。
1970年代末	市場が未発達なため深刻な赤ワインの供給過剰に陥ったバロッサで、大手メーカーがブドウ買取りを拒否。ピーター・レーマンを中心とする一部醸造家が独立し、存続の危機に瀕した栽培農家のブドウを買取って醸造、販売することで、多くのバロッサの畑を守ることに成功する。
1980年代	続くブドウの供給過剰への対策として、州政府が補助金を出し、ブドウ畑から牧草地への返還を奨励。バロッサでは多くのブドウ樹が引き抜かれる一方で、一部の小規模ワイナリーや良識ある経験豊富なワインメーカーたちによって、古樹のシラーズやグルナッシュが守り育てられる。
1990年代	大手企業によってブランド構築と生産拡大が図られ、バロッサでもワイナリーの買収、吸収合併、統合が進み、大手の巨大醸造所が建設される。一方、小規模生産者は、独自のスタイルのワイン造りを模索する。
2000年代	大手企業によってブドウの買取り価格が不当に引き下げられるなか、小規模生産者を中心に栽培農家から質の良いブドウを高値で買い取り、プレミアムワインを造る動きが始まる。
2006年	トイスナーなど7つの小規模生産者が共同のセラーダ「アルティザン・オブ・バロッサ」を立ち上げる。バロッサの畑を見渡せるテイスティングルームが開設され、定期的にメーカーズランチなどを開催。
2008年	バロッサヴァレーワイン生産者協会が主導し、調査によって地域を土壌ごとに分け、ワインの地域特性をより表現しようとする試み「バロッサ・グラウンズ(Barossa Grounds)」が始まる。
現在	中小規模生産者によってバロッサワインのスタイルは進化、新たなブランドの構築が図られる。バロッサ・ヴァレーに150以上、イーデン・ヴァレーに30以上のワイナリーが存在。

参考: Wine Australia/Barossa.com

バロッサ・ヴァレー

古木シラーズの宝庫

【概要】オーストラリア最古のワイン産地の一つで、1842年まで遡る長い歴史がある。ドイツ移民によって開拓された独自の地域性を有する。過去にフィロキセラ被害を受けることなく、樹齢100年以上のブドウ樹が点在する。6世代に亘ってブドウ栽培を続ける栽培農家が存在し、シラーズが栽培面積の約半分を占める。

＜バロッサの名前の由来＞バロッサの名前は南オーストラリアの入植地アデレードを建設した英国軍人ウィリアム・ライト大佐がスペイン独立戦争(1808-1814)でフランスのナポレオンと戦って勝利した“バロッサの戦い”にちなんで名づけられた。スペイン語の“Barrosa”は、「バラの丘」という意味であるが、間違えて“Barossa”と綴ったことから、“Barossa”となった。

【地理】州都アデレードの北方約60kmに位置し、リンドック・ヴァレー南端ウィリアムズタウンからバロッサ・ヴァレー北端セント・キッツ・クリークまでの南北約36km、西端フリーリングから東端アンガストンまでの東西約30kmにわたって広がる。一帯はマウント・ロフティ山脈の西側と東側境界の範囲内に収まり、なかでも東南部はバロッサ・レンジと呼ばれる。中心となる町はヌリオッパ。

【気候】地中海性気候で、湿度は低く乾燥し、冬の降雨量が多い。日照時間が長く、夏季の平均気温は30℃以上と高く、エベネザー地区ではしばしば37℃以上に達する。標高の高い丘陵地では、年間を通して比較的涼しい気候が保たれる。

【土壌】主に粘土質ロームと砂質ロームで、南部では沖積土が片岩と粘土層を覆い、北部では平状の石灰岩を砂質粘土ローム層が覆う。肥沃度が低く、土層が深くなるにつれ、酸性度が強くなる。丘陵地と谷間が複雑に交差し、畑の標高、傾斜によって土壌が異なる。

ヴィレッジ・セラーズ取扱生産者

【エルダトン】バロッサ・ヴァレーに長く放置されていた畑をニール & ロレーヌ・アシュミッド夫妻が1979年に購入したことに始まる小規模家族経営ワイナリー。オリジナルの畑は1894年まで遡り、樹齢40-100年の古木の畑からクラシックなバロッサらしいワインが造られる。

アイコンであるコマンド・シラーズは、エルダトンの起源となった樹齢100年以上の畑のブドウから限定数で造られる。この畑は、ヌリオッパの町外れ、ノース・パラ川近くに位置するエルダトンのワイナリーに隣接し、土壌は赤と茶色が混じるロームと石灰岩の上層を深い沖積シルトが覆う(植え付け:1894年頃)。

PICK UP WINE

Teusner Riebke Shiraz

CODE
9845

トイスナー リブキー・シラーズ 2014 (S)

産地:南オーストラリア州バロッサ・ヴァレー
希望小売価格 ¥2,650

凝縮したダークフルーツの美味しさがスパイシーな風味と噛み合わさって一口目から広がり、幅のある味わいが楽しめる。滑らかでバランスよく、石灰質を感じるドライなフィニッシュがボディを引き締める。この価格帯では値千金のバロッサ・シラーズ。



Teusner Joshua

CODE
9722

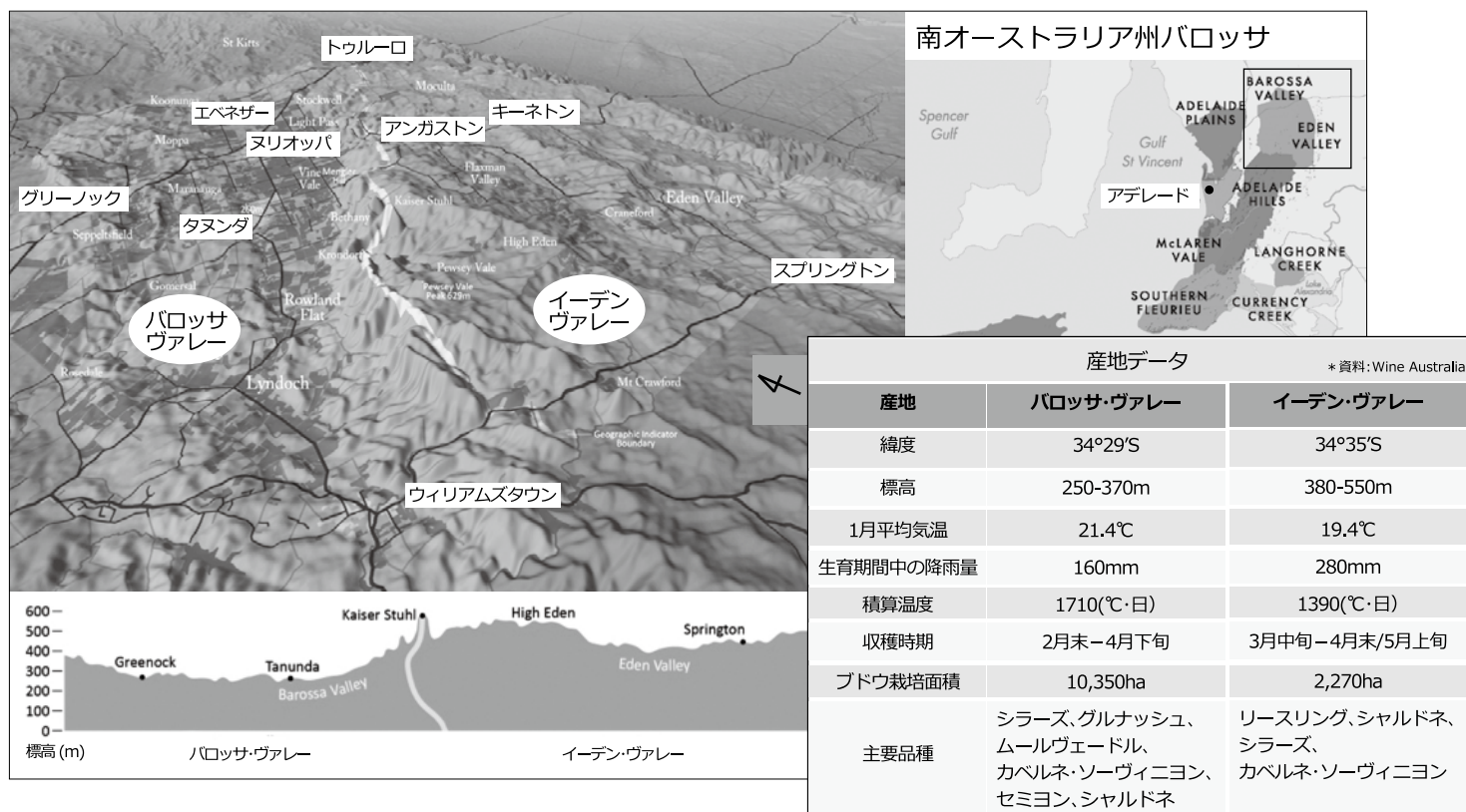
トイスナー ジョシュア 2015 (S)

産地:南オーストラリア州バロッサ・ヴァレー
希望小売価格 ¥2,650

エベネザー地区の樹齢100年のグルナッシュとマタロに、一部ゴメルサル地区の樹齢20年のシラーズをブレンドし、樽を使わず造られる。フレッシュで、芳醇なベリーの実に燻製と甘いスパイスの香りが縁取り、野性的な旨みがある。



*価格はすべて消費税別;容量は別途記載のあるもの以外すべて750ml;ヴィンテージに続く(S)はスクリューキャップ使用です。



【トイスナー】元トーブレックのワインメーカー、キム・トイスナーとマイケル・ペイジのパートナーシップにより2001年に始まったワイナリー。1990年代、大手グループの不当なブドウ買取価格により存続の危機にあったバロッサの高樹齢の畑を救うため設立された。栽培農家との緊密な信頼関係のもと、古木のブドウにフォーカスしたワイン造りを行う。

キム・トイスナーは過去、オーストラリアのベスト・ヤング・ワインメーカーに選ばれた。ジェイムス・ハリデーはトイスナーの赤ワインに最高の5つ星を付けている。

<リブキー・シラズ> 6世代続く栽培農家リブキー家の所有する畑(バロッサ・ヴァレー北西部、エベネザー地区の高台にあり、赤土および風化した鉄分を多く含む粘土層からなる)のブドウから造られる。

<ジョシュア> 樹齢100年のグルナッシュとムールヴェードルはエベネザー地区の畑(リブキー家所有)、シラズは西部ゴメルサル地区の樹齢20年の畑のブドウを用いる。

<エンプレス・イーデン・ヴァレー・リースリング> イーデン・ヴァレー内にある2つの畑(標高の高いハイイーデンともう一つはキーネトン近くにある樹齢50年の古木の畑)から造られる。

イーデン・ヴァレー プレミアム・リースリングを生む銘醸地

【概要】バロッサの「エデンの園」と称されるイーデン・ヴァレーは、同地域の小さな町の名にちなんで名づけられた。バロッサ・ヴァレーを一望する高台に位置し、周辺にはゴムの古木が立ち並ぶ。オーストラリア屈指のリースリング銘醸地として知られる。

【地理】マウント・ロフティ山麓の一部で、バロッサ・ヴァレーの東側に隣接する。北はトゥルーロの町から南はスプリングトンまで南北約34kmにわたって標高

380-550mの間に大きな起伏のある丘陵地が続き、地表には所々大きな岩が露出する。標高と地勢の変化に富み、それぞれの条件に合わせた品種栽培が行われている。主な町は、モクルタ、キーネトン、スプリングトンなど。

【気候】気温はバロッサ・ヴァレーよりかなり低く、ブドウの生育シーズンが長い。栽培シーズン中の降雨量(バロッサ・ヴァレーよりも多い)。

【土壌】主に灰色から褐色のローム状の砂地と粘土質ロームで、鉄鉱石、石英、砂利、破けた岩が表土と下層に見られる。勾配の急な斜面では風化した雲母片岩の下層を砂土が覆い、排水性が高い。

【クレア・ヴァレーと並ぶリースリングの銘醸地】イーデン・ヴァレーは砂質ロームに石英が混じった酸性土壌が多く、それがイーデン・ヴァレーのリースリングに上品な果実味と豊かな酸味をもたらすと言われる。多くのリースリングの畑は標高が高く、晩熟の栽培に適した気候条件で、ゆっくり熟す。リースリングの名手、ジェフリー・グロセットは、「クレア・ヴァレーのリースリングはライムの風味が特徴であるのに対し、イーデン・ヴァレーはグレープフルーツを思わせる」とコメントしている。

ヴィレッジ・セラーズ取扱生産者

【ハットン・ヴェイル・ファーム】1843年、アンガス・ファミリーによってイーデン・ヴァレー北東アンガストンに設立される。8世代に亘って複合農業を営み、800haの広大な農地で羊や牛を放牧する他、果物や野菜を栽培。マウント・エデルストーンの畑(植え付け:1912年)をハンチキに売却した後、1960年代から再びブドウ栽培を開始。1960年代にイーデン・ヴァレー、マウント・エデルストーン近くに植えられたシラズ、グルナッシュの畑のほか、リースリング、カベルネ・ソーヴィニヨンの畑がある。トイスナー・ワインズのキム・トイスナーにより卓越したワインが造られる。

Elderton Command Single Vineyard Shiraz

CODE 6158
エルダトン
コマンド・シングル・ヴィンヤード・シラズ
2003 (S)
産地:南オーストラリア州 / バロッサ・ヴァレー
希望小売価格 ¥12,310

10年以上熟成を経た今でもエネルギーに満ちた力強さと骨格がしっかりとある一方で落ち着いたエレガントな深みも溢れる。樹齢100年を超える低収量の古木のブドウを伝統的な開放型コンクリート樽で発酵させ、24ヶ月以上の樽熟成を経てリリースされるワイナリーのフラッグシップ。



Hutton Vale Farm Riesling

CODE 10110
ハットン・ヴェイル・ファーム
リースリング
2016(S)
産地:南オーストラリア州イーデン・ヴァレー
希望小売価格 ¥4,000

レモン、ライムのフルーツにミネラルがタイトに重なり、極めてドライ。引き締まったストラクチャーがあり、フレッシュな酸と石灰質的な長い余韻がフィニッシュに伴う。1960年代に表土が剥き出しとなった痩せた土壌の単一畑に1960年代に植え付けられた樹から造られる。





Introducing winemaking regions: Barossa Valley & Eden Valley, South Australia

At the heart of Australian wine history

— Treasuring old vine quality, to create new value —

Since the mid-19th century, Barossa Valley has been the cornerstone and leader in the development of the Australian wine industry. As well as being home to many major wine producers, it also known for grape growers who have worked the land for generations, and developed strong relationships with boutique winemakers. From producing fortified wines in the 1890s through to the state government sponsored 'vine-pull' in the 1980s, the Barossa developed a stereotype of producing big wines. In recent years a new wave of winemakers are creating a fresh image and values. We'd like to introduce you to the Barossa Valley and Eden Valley wines and winemakers, two adjacent wine regions offering very different landscapes, climates, soils and wines.

Timeline: winemaking in Barossa

1840s	Barossa was founded by a wealthy Englishman, George Fife Anga. He welcomed the proposal by a dissenting Lutheran leader, Pastor August Kavel, who wanted to re-settle his Silesian congregation in the New World, and they arrived in 1842 in Barossa Valley. They found the Mediterranean climate ideal for growing crops and fruit – especially grapes.
1890	Dozens of wineries established in Barossa by English investors including Seppeltsfield and Yalumba, make fortified wines such as Port, Sherry, Muscat and Tokay. Exports to UK begin.
1901	In 1899 the South Australian Government passed a phylloxera law to limit the import of grape vines from other states. In 1901 Australia adopted a Federal Government and interstate taxes were abolished, enabling the sales of wine to other states, and boosting development of the industry in Barossa.
1929–45	The Great Depression and World War II slashed demand for wine, and Barossa wineries and growers struggle to make ends meet.
1945–60	After WWII, new immigrants to Australia brought new lifestyles and tastes in wine with them. Barossa starts to transition from fortified to still wine production.
1970s	Applying lessons from government research studies into grape growing and winemaking, big companies start using irrigation in vineyards and temperature adjustable stainless steel tanks, enhancing wine quality and consistency. In Barossa a red wine boom begins.
Late-1970s	With an underdeveloped wine market, there is a glut of red wine in Barossa. Large wineries cut grape purchases. Peter Lehmann set up as an independent winemaker to buy the grapes from growers experiencing hardship. His success enables many growers to survive.
1980	Overproduction continues, and the State government provides grants to pull vines out and transition to pasture. While many vines are pulled, some boutique wineries kept their old Shiraz and Grenache vineyards.
1990	Consolidation among large winemakers impacts the Barossa. However, boutique winemakers continued to handcraft unique wines.
2000	Big companies again lower the grape-buying price, and small winemakers step in to buy high-quality grapes from growers to make premium wines.
2006	7 boutique winemakers including Teusner set-up 'Artisans of Barossa', with a joint cellar door tasting room overlooking Barossa vineyards, which also hosts regular winemaker's lunches.
2008	The Barossa Valley Grape and Wine Association starts the 'Barossa Grounds' survey to investigate and express the diverse regional characteristics of vineyards in the valley.
Today	Small and medium-sized winemakers develop new brands as the valley continues to evolve. There are over 150 wineries in the Barossa Valley, and over 30 in Eden Valley.

Source : Wine Australia/Barrosa.com

Barossa Valley

A treasure trove of old vine Shiraz

Overview: One of Australia's oldest wine regions, with a history dating back to 1842, it was developed by German immigrants who gave the region its unique character. The valley escaped phylloxera, so is special in having vineyards over 100 years old, today cultivated by 6th generation growers. Nearly half of the vineyards by area are Shiraz.

Origin of the Barossa name: Colonel William Light named the Valley in memory of the British victory over the French in the Battle of Barrosa in the Spanish War of Independence (1808 – 1814). Meaning 'Rose Hill', Barrosa was mis-spelt as Barossa and the name has endured.

Geography: 60km north of the state capital Adelaide, the Valley stretches approximately 36km from Williamstown in Lyndoch in the south to St Kitts in the north, and 30km from Greenock in the west to Angaston in the east. The Mt Lofty Range forms boundaries on the west and east side, with the Barossa Range in the southeast. The main town is Nuriootpa.

Climate: Mediterranean climate, dry with low humidity, with most rain falling in winter. Long sunshine hours with an average temperature in summer of over 30 degrees, with temperatures in the Ebenezer sub-region often exceeding 37 degrees. At altitude on the hillsides it is cooler all year round.

Soil: Mainly brown loamy sand and clay loam. The south has alluvial soil with clay on top. In the north sand and clay loam layers cover flat limestone, with low fertility and acidity deeper down. The changes in terrain, altitude and slope further add to the complex soil distribution.

Barossa Valley wines at Village Cellars

⟨Elderton⟩ In 1979, Neil and Lorraine Ashmead took over an abandoned vineyard and revived it as a small, family-owned winery. The original vineyard dates back to 1894, with vines 40 - 100 years old, providing superb fruit for making classic Barossa wines.

Iconic Elderton Command Shiraz: Elderton's single vineyard wine is made from fruit from the Command block originally planted in 1894 on the banks of the North Para River just outside Nuriootpa. The vineyard has deep alluvial silt with layers of loam mixed with rock.

PICK UP WINE

CODE
9845



Teusner Riebke Shiraz 2014 (S)

Region: Barossa Valley, South Australia
RRP ¥2,650

Showing rich abundant flavours and serious drinkability, it is jam-packed with plums, black fruits and warm spices. Subtle use of oak allows the fruit to take center stage, producing a plush, vibrant Shiraz of immense generosity. Excellent value for an old vine Barossa Shiraz.



CODE
9722



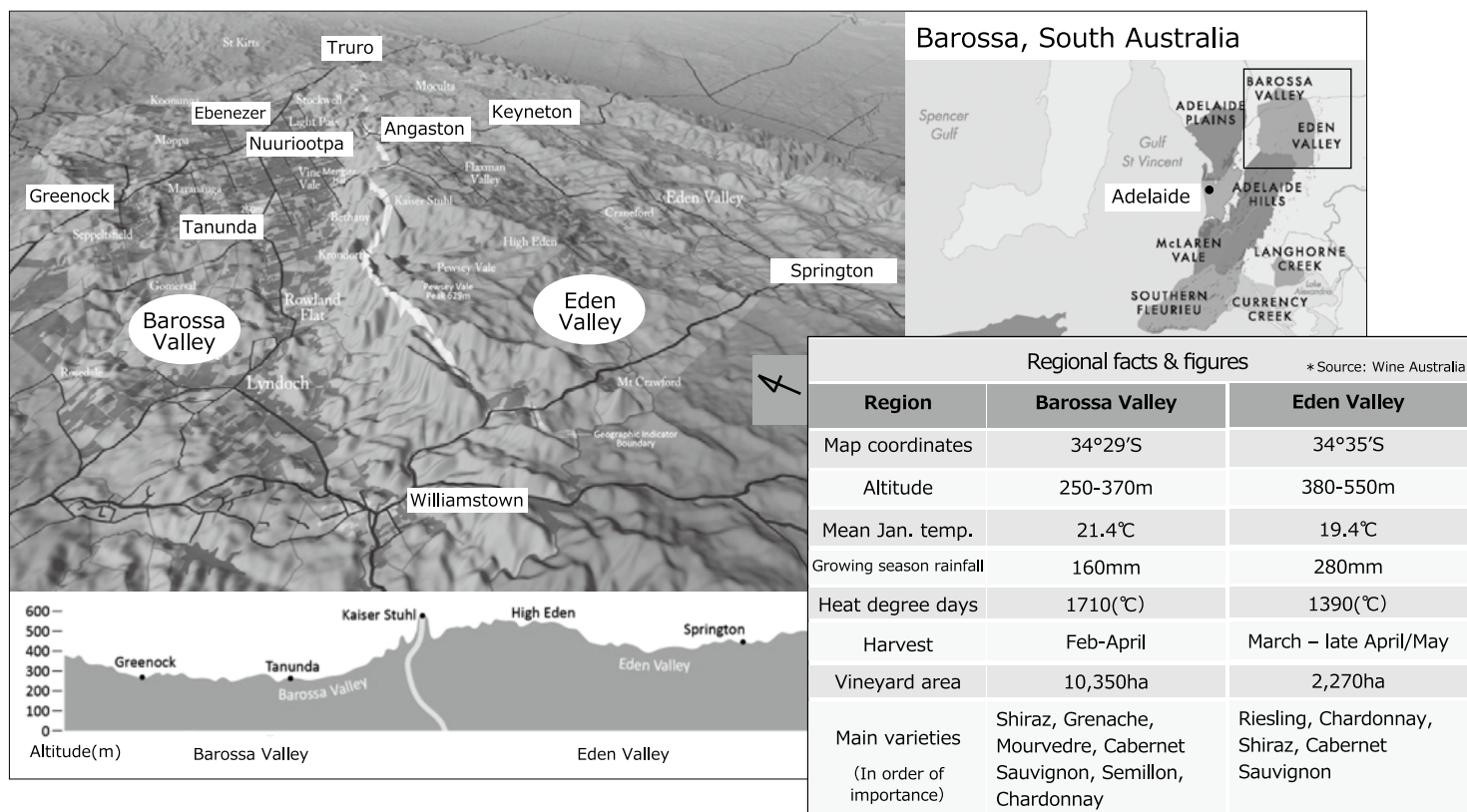
Teusner Joshua 2015 (S)

Region: Barossa Valley, South Australia
RRP ¥2,650

Made from fruit from 100-year old Grenache and Mataro vineyards in the Ebenezer district, blended with a splash of Shiraz. A mix of light and dark fresh ripe berried fruits, cured meats and lifted spice on the nose sets up a mouthful of savoury and gamey flavour in the mouth.



All wines are 750ml unless otherwise specified. Prices do not include Consumption Tax. (S) after the vintage signifies Screw Cap. RRP=Recommended Retail Price.



Teusner Teusner was established in 2001 when Torbreck winemaker Kym Teusner and brother-in-law Mick Page heard that because of low prices, grape growers in the Barossa were considering pulling out their 85-year old vines. Buying the entire crop at a fair price launched their special range of old vine wines, which has expanded over the years as their close relationships and trust with growers continues to grow. It has also brought recognition for Kym Teusner as Best Young Winemaker 2007 in Australia and 5 stars from James Halliday.

Riebke Shiraz: The Riebke family have some of the oldest vineyards in the Ebenezer district of Barossa, growing outstanding quality fruit from low-yielding vines for six successive generations. The result is this classic Barossa Shiraz with rich, abundant flavours and immense generosity.

Joshua: A blend of Grenache and Mataro from 100-year old vines in Ebenezer in northwest Barossa and a touch of Shiraz from 20 year old vineyards at Gomersal on the western ridge. Unoaked, and released young to showcase the juicy, spicy, flavours of Barossa reds.

Empress Eden Valley Riesling: Eden Valley is home to some of Australia's finest Rieslings. Sourced from two 50-year old vineyards near Angaston (dry grown, 390 meters altitude) and Springton (450 meters +), where cooler nights lead to later ripening and greater retention of natural acidity.

Eden Valley Home to Premium Riesling

Overview: Known as the "Garden of Eden" and adjacent to the Barossa, Eden Valley is named after the town at its center. Famous for its gum trees and grapes, the Valley is home to many of Australia's finest Rieslings.

Geography: The Eden Valley wine region covers an area in the Mount

Lofty Ranges extending approximately 34km from Truro in the north to just south of Springton. The Valley is bordered by the Barossa Valley to the west, and the Adelaide Hills to the south. At 380-550m altitude, it is characterized by rolling, moderately steep hills with exposed rock. The correct match of site, terrain and variety is critical to optimising growing conditions. In addition to Eden Valley, the main towns in the valley include Moculta, Keyneton, and Springton.

Climate: Temperatures are considerably lower than in the Barossa Valley, ensuring a long growing season, which varies by location in the valley. The growing season has more rain than Barossa.

Soil: Mainly grey to brown loamy soil and clay loams, ironstone gravels, quartz fragments and rock fragments on the surface and sub-surface. On steep hills, sandy soils on weathered mica schist reduce the capacity to hold water.

Clare Valley and Eden Valley comparison Eden Valley has sandy loam mixed with quartz, an acidic soil that gives the Rieslings elegant, fruity qualities with rich acid. Many of the Riesling vineyards are at higher altitudes, which contribute to slow, long ripening of fruit. Jeffrey Grosset explains: "Clare Valley Riesling typically has lime flavours, while Eden Valley Riesling shows grapefruit."

Eden Valley Wines at Village Cellars

Hutton Vale Farm: Established by the Angus Family in 1843 in the northeast of the Valley near Angaston, over eight generations they have evolved a complex agricultural business. In addition to 800ha of sheep and cattle farming, they also grow fruit and vegetables. Their original Mt. Edelstone vineyard planted in 1912 was sold to Henschke. In the 1960s they started growing wine grapes again near Mt. Edelstone, planting Shiraz, Grenache, Riesling and Cabernet Sauvignon. Their wines are made by Kym Teusner.

CODE
6158



**Elderton Command
Single Vineyard Shiraz 2003 (S)**
Region: Barossa Valley, South Australia
RRP ¥12,310



Superb Shiraz after over 10 years ageing in the bottle in our cellars. Made from a single, low-yielding block planted in the 1890s, it is rich, deep and elegant. Raspberry, blackberry, dark chocolate, meaty, aniseed aromas and flavours, with a pronounced chalky, firm tannin structure.

CODE
10110



**Hutton Valley Farm
Riesling 2016(S)**
Region: Eden Valley, South Australia
RRP ¥4,000



Made from fruit from a vineyard planted in the 1960s, this beautiful wine has a lovely vibrant lifted lemon zest and lime cordial intermingled with mineral and talc notes on the nose. The palate shows fresh lemon and lime, a dash of minerality, refreshing acidity and a long textured chalky dry finish.